

7 小型シカ <偶蹄目、シカ科、ホエジカ属>

和名：キョン

英名：Reeves's muntjac

学名：*Muntiacus reevesi* (Ogilby, 1839)



【キョン】

(財) 東京動物園協会提供

(1) 動物の特徴と同定

分布：中国南東部、台湾

特徴：体色は茶褐色で覆面は黄色を帯びる。吻、額は暗面で眼の上から頭頂部にかけて黒い線がはしる。四肢は黒褐色、小型のシカで角はオスにのみみられ2尖で先端は内側に曲がる。長さ7～8cmで記録的には13cmのものもある。またオスの上顎の犬歯は矛状となり下顎の外側に出る。

体長：47～70cm

尾長：8～10cm

体高：45～50cm

体重：12～17kg

習性等：

- ・2亜種が知られており、わが国に野生化しているキョンは台湾産の亜種 *Muntiacus r. reevesi* とされている。
- ・森林ややぶの多い場所を好み、朝、夕活発に活動するのが見られる。木の葉や果実を餌としている。
- ・単独で行動することが多く、オス同士は激しく戦うことがある。

- ・周年繁殖が見られるが、1月～2月に交尾が見られ、4月から7月に出産のピークが見られる。妊娠期間は209～220日で1産1仔、新生仔の体重は550～650gである。危険時には犬のような警戒音を発する。
- ・飼育下においては19年8ヶ月の生存記録が知られている。
- ・イギリスにおいても移入された個体が野生化しているが、わが国では東京都伊豆大島において、1980年頃より千葉県房総半島において野生化した個体がみられている。

(2) 保定方法とマイクロチップの埋込み

ア 保定の方法

四肢の蹄は鋭く、特に、オスの成獣は犬歯を持つため、全て作業にあたっては、保定者は革手袋を装着する。

A 器具を使用しない保定法

シカやレイヨウの仲間は、生後間もなく茂みの中で、伏臥でじっとしている。そのため、1週間ほどは体を両手で押さえるほどで保定が可能である。



【生後1週間のキョン（伏臥状態）】

（財）東京動物園協会提供

B 器具を使用した保定法

親を保定する場合は捕獲の際に玉網を使用し、玉網ごと動物を押さえる。この際、キョンは四肢を全身の力で動かすため、複数の保定者が必要である。

C 特に注意すべき事項

マイクロチップの埋込み処置は短時間で終了するため、原則的には麻酔は要らない。玉網での捕獲が困難である場合、吹き矢を用いて麻酔する。

イ マイクロチップの埋込みの方法

生後間もなく埋込みが可能である。ただし、生後 1 週間以上を経過すると動き回り、捕獲が困難となるため、生後 1 週間までが適期である。

A 埋込みの部位

左右の肩甲骨間皮下に埋め込む。

B マイクロチップ埋込みの実際

術部をイソジン綿、アルコール綿で消毒し、注入器の針を上記の皮下に穿刺しマイクロチップを挿入する。マイクロチップの脱落を防ぐため、皮膚の穿刺痕に外科用接着剤を塗布し、外用散剤を散布する。